

Vol.004

15 July, 2020

Plaza 通信 Vol.004
の内容

- ◇ 新型コロナ感染防止対応の日本語教室の再開
- ◇ 外国にルーツを持つ子どもたちの状況

7月のプラザ

熊本市外国人総合相談プラザでは、ホームページやFacebookから多様な情報を発信しています。

6月のプラザでは、対面での相談が本格再開し、その件数は161件と増加しました。また、ホームページでは、日本への国外から入国緩和（タイ、ベトナムは労働者を対象に入国が許可されるなど）、7月1日からのレジ袋有料化、気温が上昇する季節でのマスク着用の注意などの情報をやさしい日本語や外国語で分かりやすく発信しています。外国人住民の皆さんにもご案内いたしますようお願いします。

詳細・開設時間などは下記へ：

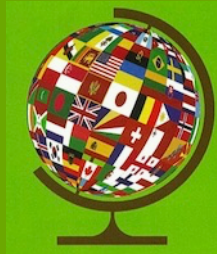
熊本市国際交流振興事業団
860-0806
熊本市中央区花畑 4-18
熊本市国際交流会館2階
TEL 096-359-4995
e-mail

soudan@kumamoto-if.or.jp



ホームページのQRコード

ぶらざ つうしん Plaza 通信



たぶんかきょうせい かんが
～多文化共生を考える～

◇ 新型コロナ感染防止対応の日本語教室の再開

熊本では、5月中旬に新型コロナウイルス感染レベルが緩和され、国際交流会館では会議室・ホール利用を5月21日に再開しました。KIFの事業は6月から随時再開となりましたが、地域日本語教室に関しては、外国人参加者と日本語ボランティア/サポーターの皆さんに状況を確認しながら再開の時期を検討してまいりました。再開を望む声と同時に新型コロナへの感染への心配を共にお聞きする中、会館での「くらしのにほんごくらぶ」を6月23日（火）午前中の教室から次のとおり限定的に再開することができました。



- ① 一つのテーブルに一人の外国人参加者として自習形式で日本語学習を行う。
- ② 分からないことを、ビニール（アクリル板）・パーテーションのあるボランティアデスクで質問、15分程度の会話ができるようにする。

上記のような活動を基本に、新型コロナウイルス以前の日本語教室の姿へ徐々に戻していく予定です。会館外の地域日本語教室は、西区7月18日（土）、東区7月19日（日）、北区7月21日（火）にそれぞれ再開を計画しています。

対面での活動に加え、オンラインでの日本語おしゃべり会を2週間に1回 Zoom アプリを使って行っています。皆さんの回りで日本語のおしゃべりをしたい外国人住民の方々がいたら、どうぞご案内くださいませ。

⇒ 国際交流振興事業団企画チーム e-mail pj-info@kumamoto-if.or.jp

豪雨災害への 対応！

6月の本プラザ通信 Vol003で、災害と外国人について、外国人の方々が言葉や文化・習慣の違い、母国での被災体験の有無から要援護者になることをレポしましたが、7月に入り、県南を記録的な豪雨が襲いました。球磨川が氾濫し、甚大な被害をもたらしました。その後、県北でも豪雨となり、至るところで冠水する等被害が発生しています。

県南、県北とも技能実習生をはじめ外国人住民は近年増加している地域となります。

困っている外国人住民、孤立している外国人住民の方々がいたら、やさしい日本語で声をかけ、支えていただければと思います。自治体国際化協会のホームの多言語情報提供ツールもご利用いただけます。(次のQRからアクセスできます。)



毎週日曜日
は国際交流
会館で、子
どもたちの
勉強会も開
催していま
す。

また、当プラザへお気軽にご相談ください。電話対面での対応は午前10時から午後6時までとなります。メールでの対応も可能です。連絡先は表面をご参照ください。

オンライン日本語おしゃべり会

6月21日(日)「コロナウイルスと生活の変化」、7月5日(日)「今年の夏にしたいこと」をトピックスとして2回開催しました。



Zoom アプリをつかったの日本語おしゃべり会の様子

オンラインでトピックスについて、日本語で自由に発表やおしゃべりする機会です。

次回は7月18日(土)の夕方に「食」をトピックスにして行う予定です。

☆ 外国にルーツを持つ子どもたちの状況

文部科学省の日本語指導が必要な児童生徒の受入状況調査結果

令和元(2019)年9月、文部科学省は平成30(2018)年の公立小・中・高等学校における日本語指導が必要な児童生徒の受入状況調査の結果を公表しました。

- ・日本語指導が必要な児童生徒数 50,759人(平成28(2016)年の前回調査より6,812人増加しました。(15.5%増))
- ・上記のうち、外国籍の児童生徒数は40,485人(前回調査より6,150人、17.9%増)

熊本県における日本語指導が必要な外国籍の公立学校における児童生徒数は79人(小学校55人、中学校21人、高等学校3人)で、前回調査時87人より若干減少しました。外国児童生徒の母語については、中国語32人、フィリピン語19人、英語4人、その他24人となっています。

熊本での外国にルーツを持つ子どもたちへの支援

日本語指導が必要な児童生徒が高等学校へ進学した後の課題に、全高校生等と比較して、中途退学率で7.4倍、就職者における非正規就職率で9.3倍、進学も就職もしていない者の率が2.7倍と高くなっている状況があります。

熊本では、NPO法人外国から来た子ども支援ネットくまもと(進路ガイダンス事務局:岩谷美代子さん、iwatani345@jcom.zaq.ne.jp)が、熊本県教育委員会等の後援の下、毎年、「外国ルーツの生徒の保護者のための進路説明会」を開催し、外国にルーツを持つ子どもたちが、自分の希望する道に進むために、勉強の仕方や高校入試のしくみなどを案内しています。日本の教育制度に不慣れな外国人保護者の皆さんにとって、多様な学校の特徴や経費など重要な情報を知ることができる機会でもあります。今年の当該ガイダンスは、7月12日(日)に開催しました。

*熊本県の公立高等学校には外国にルーツを持つ子どもたちへの入試特別措置があります。

熊本市の在留外国人(7月度速報)

在留外国人数/総人口 6,574人/732,453人(外国人比率 0.9%)

6月の

相談プラザ

相談件数

161件